

平成 30 年 6 月 19 日現在

機関番号：62501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K11925

研究課題名(和文)津波被害を受けた民間所在歴史資料の歴史情報保存に向けた基礎的研究

研究課題名(英文)Study on the Preserving Historical Resources from the Family Archives Damaged by
Tsunami

研究代表者

天野 真志 (Amano, Masashi)

国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・准教授

研究者番号：60583317

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、古文書を中心とした紙媒体歴史資料の自然災害からの保全と長期保存に向けた技術的方法論の確立を目指し、津波被害を受けた古文書類の安定的な保管と歴史情報の保存に向けた検証をおこなった。また、カナダ・モントリオールにて日本における歴史資料の災害対応を発信し、国際的な観点から歴史資料保存の課題と可能性について検討した。
本研究の成果を踏まえ、国立文化財機構と連携して「文化財防災マニュアルハンドブック」を監修し、成果の社会的な貢献に向けた発信をおこなった。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to establish methodology for preservation of historical paper materials. this study verified the stable preservation method for preserving historical information of damaged paper documents by tsunami.the research leader sent out the current state of preservation of historical materials in Japan in Montreal. From the international viewpoint, we examined issues and possibilities of preserving materials in Japan. Finally, project leader supervised the handbook "Manual for Cultural Heritage Disaster Risk Mitigation -Examples for Cleaning Soiled Paper Materials-" as a dissemination of outcomes and shared it with society.

研究分野：歴史学

キーワード：震災問題 文化財保護 古文書学

1. 研究開始当初の背景

東日本大震災で津波被害を受けた歴史資料が大量に発生し、その対応をめぐり被災各地で様々な課題に直面した。特に、古文書などの紙媒体資料については、その急速な劣化や廃棄などの消滅が懸念される一方で、それらを安定的に保存・活用するための具体的な方法論が未確立な状態であった。特に、保存科学や文化財修復などの専門的知見を被災現場に活用する工程については、情報整理を含めた分野間連携が不十分であり、現場において大きな混乱をもたらした。今後歴史文化の災害対策を検討するためには、これらの専門知を相互共有し、検証と実践の双方向的な議論を踏まえた歴史資料の災害対策が求められる。

2. 研究の目的

大規模自然災害からの歴史資料の保全を目的とした場合、克服すべき課題は消滅からの危機のみならず、長期的視野に立つ保存体制の確立である。そのためには、対象となる歴史資料を多角的観点から観察・検討し、遺すべき情報を保存するための技術選択が必要となる。本研究では、文献史学・古文書学・アーカイブズ学・美術史などの紙媒体資料を分析対象とする各専門分野の、資料に対するアプローチとそのために必要な情報を集約し、復旧・保存に関する技術選択に求められる情報整備をおこなう。

また、保存科学系技術との協力関係に基づき、復旧技術の資料に対する影響性について経過観測を実施することで、中長期的視野に立つ歴史資料の保存体制の構築を課題としたい。特に、専門機材や設備を必ずしも要さない方法による技術開発を重視し、日本の特徴である民間所蔵の資料に対応するための技術論を提起する。

3. 研究の方法

本研究は、東日本大震災により津波被害を受けた紙媒体歴史資料の復旧と保存対策に

ついて実践的観点からの提起を目指すものである。特に被災資料の歴史的情報を可能な限り保全することを念頭に置き、歴史資料の文字情報・成分情報の保全をおこなうための方法論を構築する。そのため、一時的な劣化の抑制を目的とせず、長期的視野での方法論を構築することが目指される。

そのため、これまで採用されてきた、真空凍結乾燥法や送風乾燥法などの乾燥法、エタノール噴霧によるカビ抑制措置、スクウェルチ・ドライイング法による洗浄法などについて、それぞれの効果と副作用について観測調査を実施していく。

その上で、多くの技術を有機的に連結させた総合的な被災紙媒体資料の復旧・保存工程の策定をおこなう。なお、研究遂行にあたり、次頁に掲げた図のようなイメージで、NPO や市民などとの協力関係に基づく検証・工程策定・実践と社会還元サイクルを構築する。

4. 研究成果

(1)「文化財防災意見交換会」を実施し、各地域における歴史資料の防災対策や被災時に想定される課題について、東日本大震災時における津波被害を踏まえて協議した。2016年1月には高知県高知市において、こうちミュージアムネットワークの協力により開催し、南海地震を想定した防災対応について、津波被害で想定される歴史資料の対策を協議し、人材不足にともなう対応の遅れを念頭においた広域的な支援体制のあり方について検討した。また、2016年11月には宮崎県宮崎市において、宮崎歴史資料ネットワークとの会合をおこない、津波被害が想定される宮崎地域の対策状況について議論した。これらの成果については、文化財保存修復学会大会にてポスター発表を実施し、関係者とその成果を協議することができた。

(2) 本研究期間中である 2015 年 9 月に東

北・関東豪雨が発生したことから、本研究での課題を踏まえて対応をおこない、茨城県常総市および下妻市で河川氾濫にともなう水損被害をうけた民間所在紙媒体資料の保存に向けた検討をおこなった。特に、水損資料の乾燥方法をめぐる検討をおこない、真空凍結乾燥法による工程を経る過程で残留する汚損物質の除去に関する課題の検討を進めることができた。また、発生したカビ抑制の可能性として線照射を検討し、関連研究者と実物の熟覧を通じた協議をおこなった。本成果を踏まえ、今後東北大学災害科学国際研究所での共同研究を企画し、多様な手法を併用することで真空凍結乾燥法の効果的な活用法を検証するための展望を得ることができた。

(3) 2016年5月にカナダ・モントリオールで開催された American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 44th Annual Meeting & Canadian Association for Conservation of Cultural Property 42th Annual Conference において General Session “ Saving and Preserving Family and local History from Natural Disaster: Addressing Challenges from the 2011 Earthquakes in Japan ” に参加し、“ the Dilemma and the Developing Challenge for Preserving Historical Materials since 2011 ” として発表した。そこで、東日本大震災以降顕在化した民間所在歴史資料救済および保存・修復に向けた課題を整理し、「日本型マス・コンサベーション」の可能性について提起した。本発表を通して、歴史資料保全に関する日本国内の状況について国際発信をおこなうとともに、海外事例を踏まえた情報共有と今後の体制作りのあり方について展望を示すことができた。

(4) 2016年4月に熊本地震が発生したこと

を受け、本研究の成果を踏まえて被災地における救出・保存に向けた実践活動をおこなった。特に、国立文化財機構文化財防災ネットワーク事業と連携し、地元作業者向けのワークショップを実施し、簡易的な洗浄・保存方法の提供をおこなうことができた。本取り組みを踏まえ、国立文化財機構が作成した動画およびハンドブック「文化財防災マニュアル ハンドブック 汚損紙資料のクリーニング 処置例」を監修し、本研究の社会に向けた発信を実践することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

天野真志、宮城における被災文化財の現在
地点、歴史学研究会、査読無、No.961、2017年、pp.38-41

天野真志、地域歴史資料と災害対策、文化財保存修復学会誌、査読無、vol.60、2017、pp.62-67

[学会発表](計 5件)

Masashi AMANO、The Dilemma and the Developing Challenge for Preserving Historical Materials since 2011、American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 44th Annual Meeting & Canadian Association for Conservation of Cultural Property 42th Annual Conference、2016年5月16日

天野真志・吉原大志・内田俊秀・甲斐由香里・芳賀文絵・田井東浩平、地域歴史資料の防災ネットワーク構築の手法としての「文化財防災意見交換会」、第38回文化財保存修復学会大会、2016年6月26日

松下正和・天野真志・内田俊秀・酒井浩一・藤田和久・吉川圭太・古田雅一、「水損和紙資料(古文書)に発生したカビの放射線殺菌に関する基礎的研究、地域連携研究機構・放射線研究センター平成27年度共同利用報告会、2016年11月18日

天野真志、地域歴史資料の保存と継承、関山街道講座「よみがえるふるさとの歴史 地域資源の存続の意義を考える、2016年1月31日

天野真志・内田俊秀・吉原大志・竹原万雄・吉川圭太、地域歴史資料の防災・減災対策と史資料ネットワークの役割、第37回文化財保存修復学会大会、2015年6月27日

〔図書〕(計 1件)

天野真志、蕃山房、記憶が歴史資料になると
き、2016、78

〔その他〕

ホームページ等

<https://ch-drm.nich.go.jp/manual/paper-materials>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

天野真志 (AMANO, Masashi)

人間文化研究機構 国立歴史民俗博物
館・特任准教授

研究者番号：60583317

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()